

江戸川学園おおたかの森専門学校

学校関係者評価委員会議事録

(令和 2 年度)

2021 年 9 月

学校法人江戸川学園

江戸川学園おおたかの森専門学校

1. 学校関係者評価委員会開催概要

開催日時	2021年9月18日(土) 午後1時30分～午後3時00分	
開催場所	江戸川学園おおたかの森専門学校 F102 会議室	
参加者(敬称略)	江戸川学園おおたかの森専門学校後援会会長 江戸川学園おおたかの森専門学校同窓会会長 駒木自治会会長 社会福祉法人修央会 船橋笑寿会 相談室長 学校法人江戸川学園江戸川大学教授	川崎 一也 皆川 博行 渡邊 治 平尾 悟 神田 洋
欠席者(敬称略)	駒木自治会会長	渡邊 治
学校側参加者(オブザーバー)	江戸川学園おおたかの森専門学校 校長 " 副校長 " 副校長 " 副校長	原 頼信 杉野 聖子 原田 聖子 奥山 武浩

2. 議事内容

学校関係者評価委員会の趣旨及び議事進行について	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川学園おおたかの森専門学校副校長 奥山武浩(以下 奥山副校長)より議事内容・進行について説明があった。 ・本委員会開催に関し、「学校評価に関する関連法令」及び本委員会の開催主旨、評価結果の開示状況などについて説明がなされた。 ・議題は以下の2つになる。 (1)令和2年度(2020年度)・令和3年度(2021年度)の事業計画及び進捗について (2)令和2年度自己評価結果の説明および審議 ・議事内容・進行については、「学校自己評価報告書(令和2年度)」(各評価項目)に基づいて審議し、評価を行うこととした。
委員会の成立及び議長選出	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の参加者及び欠席者を確認(委員5名のうち4名出席)し、定足数(委員の過半数)に達していることを確認。 ・委員の互選により学校法人江戸川学園江戸川大学教授 神田洋氏(以下議長(委員長))を議長(委員長)として選出。

(1)令和2年度・令和3年度の事業計画及び進捗について

<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川学園おおたかの森専門学校校長 原頼信(以下 校長)より令和2年度・令和3年度の事業計画及び進捗について説明があった。 <p>①学科構成の再編成</p> <p>学生募集が低迷していた社会福祉学科(定員40名)と精神保健福祉学科(定員40名)を統合し、2020年度から心理・社会福祉学科(定員40名)の1学科に改編した。学科統合により、社会福祉、精神保健福祉と幅広い福祉分野を学べる学科として、効率的な学科運営(定員充足率向上)を行う。2021年度は定員充足率95%まで増加した。2022年度は定員充足率100%を目指している。</p> <p>②留学生の本格的な受け入れ態勢</p> <p>「千葉県留学生受け入れプログラム」に参画し、2020年度より本格的な留学生の受け入れを開始した。</p>

③新型コロナウイルスに対する防疫と教育システムの再構築

新型コロナウイルスに対応するための施設・設備への防疫施策を実施。オンライン等による授業を展開。

④駒木キャンパス環境整備

2018年度より中庭、バス停周辺を中心に大改装を実施、2020年6月に第3期工事が終了。

⑤学園全体の事業活動収支について

学園全体の収支差額は、大学の学生数増加(小規模大学で定員数制限が緩いことを含む)、小学校で全学年学生が充足された、新型コロナウイルスの影響により経費が削減したことなどにより大幅に収支が回復した。

⑥学生数の推移について

2018年度には学生数が300名を下回ったが、2021年度は344名まで回復した。入学生数に関しては、2020年度は187名まで増加し、2021年度は新型コロナウイルスの影響で、留学生が入国できずに若干名減少したが概ね改善傾向にある。学科別にみると、介護福祉学科入学者数が2010年度154名から2017年度41名と大幅に減少したが、2017年9月の介護ビザ認定を契機に、ベトナム、フィリピン等からの留学生が増加し、2021年度は68名と改善基調にある。こども福祉学科は学生募集に苦戦し、2021年度は58名と、2020年度より13名減少した。心理・社会福祉学科は2021年度、前年度より10名増加。

⑦新型コロナ対策とオンライン授業について

新型コロナウイルス感染対策として、2019年度卒業式、2020年度入学式を中止。4月からの授業もオンラインで実施していたが、3密回避および手洗い・消毒を徹底したうえで、6月より一部(5~6割)対面授業を開始した。オープンキャンパス等の学生募集も3~5月は対面での実施を中止していたが、オープンキャンパスに関しては6月20日から人数限定(50名)で再開した。後期は対面授業を7割程度に増やして実施(登校3日、オンライン授業2日)。2021年度に関しても同程度で実施している。

⑧外国人留学生受入の状況について

2017年の介護ビザ創設により介護福祉士を目指す外国人留学生が増える状況の中、2018年度より留学生受入(4名)を開始し、2021年度は24名の外国人留学生が入学した(在籍数50名)。出身国は、半分程度がベトナムとなっている。日本全体の介護福祉士養成校への入学者は2013年度の約13000人から2020年度には約7000人まで減少し、そのうち約1/3が外国人留学生となっている。千葉県では2019年度より千葉県留学生受入プログラムを開始し、本校もそれに参入している。2020年度は10名が同プログラムの県内マッチングで参加、2021年度は新型コロナウイルスの影響で留学生の入国が遅れた影響で、県内マッチング2名、現地マッチング1名が入学。入国待ちの23名は一年遅れで2022年度入学予定。2023年度も25名程度が現地マッチングで入学予定。

⑧専門学校の財務について

基本金組入前当年度収支差額では本校は十数年前から赤字体質になっているが、学生数増加、コスト削減等により赤字の縮小を図っている。今年度の学生募集の結果次第であるが、来年度は黒字着陸をしたい。

(2)令和 2 年度自己評価結果の説明および審議

I. 学校の現況

II. 評価の基本方針

III. 重点目標

IV. 本年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

	<p>・議長(委員長)より「学校自己評価報告書」内容(目次・各評価項目等)の説明が求められ、奥山副校長より「I. 学校の現況」、「II. 評価の基本方針」「III. 重点目標」「IV. 本年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画」に関して説明があった。</p>
--	--

V. 評価項目の達成及び取組み状況

(1)教育理念・目標	<p>・議長(委員長)より、(1)の項目についての説明が求められた。</p> <p>・奥山副校長より(1)の項目について、評価項目「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」に関して、ニーズ等に応えるべく学校運営を行っているが、具体的な将来構想について明確になっていないため評価をほぼ適切(3)とした。また評価項目「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」に関して、コロナ禍で入学時オリエンテーション等を十分に行えず不十分であり、また保護者等に対しても周知を行っていないため評価をやや不適切(2)としたと説明があった。</p> <p>・社会福祉法人修央会 船橋笑寿会 相談室長 平尾悟氏(以下 平尾氏)より評価項目「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」に関して、コロナ禍で入学時オリエンテーション等を十分に行えず不十分であったということだが、コロナ禍が継続した場合の施策は考えているのかと質問があった。</p> <p>・江戸川学園おおたかの森専門学校副校長 杉野聖子(以下 杉野副校長)より令和 2 年度は 4 月 7 日に初めての緊急事態宣言が発令され、学生たちは最低限必要な手続きのために登校し、そのまま全面オンライン授業に入った。授業継続に注力したためオリエンテーションがおろそかになった。令和 3 年度は最小限ではあるが全学科でオリエンテーションを実施し、前年度より改善した。今後コロナ禍が継続した場合もオンライン等を駆使して実施可能と考えていると説明があった。</p>
(2)学校運営	<p>・議長(委員長)より、(2)の項目についての説明が求められた。</p> <p>・奥山副校長より、(2)の項目について基本的に適切(4)との評価をした。評価項目「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」に関してはほぼ適切(3)としたと説明があった。</p>

(3)教育活動

- ・議長(委員長)より、(3)の項目についての説明が求められた。
- ・奥山副校長より、(3)の項目について、概ね適切(4)かほぼ適切(3)の評価をしたが、評価項目「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」はやや不適切(2)としたと説明があった。
- ・杉野副校長より、教育成果を確認し、外部関係者からの評価を取り入れることができるのが実習報告会であり、従来なら現場の指導者にも来校して参加していただくのだが、コロナ禍で機会喪失をした。また、外部施設の実習受入も制限され学内実習に切り替えざるを得なくなる場合もあり、令和2年度は外部関係者からの評価を取り入れる機会が減少したためこの評価としたと説明があった。
- ・議長(委員長)より、外部ゲストにオンラインで参加していただく方法等もあると思うが、現在専門学校ではどれくらいオンライン授業を実施しているのかと質問があった。
- ・杉野副校長より、時間割通りにライブでオンライン授業を実施している科目もあるので、外部ゲスト等に参加していただくことも可能だが、ライブで実施している割合は大学ほど高くない。これはPC保有率が低く、スマートフォンで授業に参加する学生が多いため、多人数でのリアルタイムの発言や発表は難しい(少人数の演習などでは発表・発言や外部ゲストの参加を実施)ので、オンデマンド型の授業が主流になっていると説明があった。
- ・江戸川学園おおたかの森専門学校同窓会会長 皆川博行氏(以下 皆川氏)より以前は学生にPCを配布していたのではと質問があった。
- ・奥山副校長より、ずいぶん前に実施していた。現在は大学のみ実施していると説明があった。
- ・議長(委員長)より、学生がスマートフォンで参加しているならば、パワーポイントよりも口頭での授業のほうが学生は視聴しやすいのかと質問があった。
- ・杉野副校長より、普段から使い慣れている youtube で配信してもらえると一番見やすいとの声があがっていると説明があった。
- ・江戸川学園おおたかの森専門学校後援会会長 川崎一也氏(以下 川崎氏)より、評価項目「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」の評価が適切(4)となっているが、オンライン授業では、テストの実施などが大変だと思うが、どのように実施しているのかと質問があった。
- ・杉野副校長より、テストもオンラインで実施している、ただし実技科目に関しては対面で実施していると説明があった。
- ・校長より、令和2年に新システムが導入され、テストのオンライン上での一斉配信・結果の自動集計等ができるようになったと説明があった。
- ・川崎氏より、新システムは新型コロナウイルス流行を受けて導入したのかと質問があった。
- ・校長より、新システムは令和2年度より「高等教育の修学支援新制度」が始まり、奨学金受給、学費減免の学生について半期ごとに成績を評価・報告する必要があるため導入された。コロナ禍は偶然と説明があった。
- ・杉野副校長より、当初は新システムのオンライン機能をそこまで全面的に使用する予定がなかったので、緊急事態宣言発令後に教員は対応に苦労した。学生や教員への連絡や一斉配信でき重宝していると説明があった。
- ・奥山副校長より、介護福祉士養成や保育士養成では実習・演習科目が重視されるが、緊急事態宣言下で、オンライン、もしくは学内実施で代用可能と県や厚労省より通達があったため通達に従って実施していると説明があった。

<p>(4)学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(4)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(4)の項目について、評価は全体的に低くなっている、特に評価項目「卒業生・在学生の社会的な活動及び評価を把握しているか」に関して、学校としては卒業生の現況をほぼ把握できていない、現況を把握するシステムはなく、卒業後に相談に来る学生を含めて個々の教員の力量に任されている面があると説明があった。 ・皆川氏より、卒業生の現況把握に関しては現在同窓会でシステム化を進めていて、委託業者は決まったが、システム構築は完了していない。完成・稼働すれば、卒業生の各資格のアンケート等を実施して、学校側にフィードバックできると考えている。卒業後に新たに資格を取得している卒業生も多くいるので、卒業生の活躍を把握して学校の資産として活用していただきたいと思うのもうしばらくお待ちくださいと報告があった。 ・奥山副校長より、学校側としても卒業生・在学生の社会的な活動及び評価を把握する計画を立てる必要があると考えていると説明があった。 ・皆川氏より、評価項目「資格取得率の向上が図られているか」に関して、現在国家試験合格率はどれくらいなのかと質問があった。 ・奥山副校長より、保育士は卒業時に資格取得となる。社会福祉士と精神保健福祉士は卒業後に実務経験が必要となる。国家試験合格率が重視されるのは介護福祉士になると説明があった。 ・校長より、昨年度の試験では日本人は合格率 91.5%、一昨年は 84%で、受験生全体の合格率約 70%と比較すると高くなっている。留学生は約 30%で留学生の平均合格率と同程度になっている。 ・皆川氏より、留学生は国家試験不合格の場合どうなるのかと質問があった。 ・校長より、以前は卒業時に介護福祉士の資格が付与されていたが、法律の改定により、2018年1月実施試験からは受験が必須になった。新法の施行(平成29年4月1日)から令和9年3月31日までに介護福祉士養成施設を卒業した者については、介護福祉士試験に合格しなくても(不合格又は受験しなかった者)、卒業年度の翌年度から5年間は介護福祉士となる資格を有する者とする経過措置が設けられている。5年間に国家試験に合格すれば継続して介護福祉士の資格を有することになる。受験しない場合、5年間介護の仕事に従事すれば、さらに5年間資格が延長されると報告があった。
----------------	---

<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(5)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(5)の項目について、評価は概ねほぼ適切(3)となっている。評価項目「学生相談に関する体制は整備されているか」に関しては適切(4)としたと説明があった。 ・平尾氏より、評価項目「学生相談に関する体制は整備されているか」に関して、コロナ禍で相談内容の変化はあったのかと質問があった。 ・杉野副校長より、個別の相談内容についてはカウンセラーに守秘義務があるため把握していないが、本校での相談内容は家族問題、性格・行動問題が主となっている。コロナ禍でも内容や件数にあまり変化はない印象であるが、友達ができないなど人間関係に関する相談は若干増えているかもしれないと説明があった。 ・平尾氏より、現在働いている施設でもコロナ禍での職員のメンタルヘルスが問題になっている。介護職を目指す学生もそういう点で不安はないのだろうかと質問があった。 ・杉野副校長より、学生が毎日登校できれば、教員も学生の変化を把握しやすいが、現状では把握できていない。コロナ禍でなければ学校を辞めないですんだと思える学生もいる。逆に普段は登校が難しいがオンラインなので学校を継続できているケースもあると報告があった。 ・江戸川学園おおたかの森専門学校副校長 原田聖子(以下 原田副校長)より、心理・社会福祉学科では、完全オンライン授業の期間に、不安定になり退学した学生が出たが、6月15日以降週3日登校し対面授業を開始してからは安定してきた印象があると説明があった。 ・平尾氏より、対面できるようになって安定したのだろうかと質問があった。 ・原田副校長より、登校して週3日登校できると友人関係もできるのがよかったのではないかと説明があった。 ・皆川氏より、卒業生から個々の教員に相談があった場合はどのようにしているのかと質問があった。 ・杉野副校長より、在校時の担任が学校に残っていれば訪問や転職の相談にくることがあると説明があった。 ・皆川氏より、同窓会でも検討しているが、福祉業界は他の分野より転職が多い。第2新卒といわれるような転職をする人もいるので、そのような窓口をつくってもいいのではないかという意見があった。 ・杉野副校長より、本校の実習・就職センターには福祉業界の求人情報が集まっていて、卒業生も閲覧に来ることがある。同窓会の会員に紹介していただいてもいいのかもしれないと説明があった。
<p>(6) 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(6)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(6)の項目について、平均的な評価をしたが、評価項目「防災に対する体制は整備されているか」に関しては教職員に対する防災訓練を年1回以上実施しているが、学生を含めた防災訓練が徹底されていない点でやや不適切(2)の評価としたと説明があった。

<p>(7)学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(7)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(7)の項目について、学生募集、教育成果、学納金に関して虚偽や誇張をすることなく内実を伝えているということで適切(4)もしくはほぼ適切(3)の評価をした。特に学生募集に関しては誠実に対応していると説明があった。 ・議長(委員長)より、学生募集のターゲットエリアはどの地域なのかと質問があった。 ・校長より、東葛地域がメインとなるが、他に千葉市周辺、茨城県、埼玉県の三郷、春日部周辺、東京都の足立区、葛飾区周辺から来ている学生がいる。留学生に関しては当初は東葛地域と一部東京の日本語学校だったが、本年度入学者は長崎、鳥取、富山など全国各地から来ている。来年度学生募集では、コロナ禍の影響なのか受験生から直接ではなく、学校教員のからの資料請求が多くなっているのがこれまでと違っていると説明があった。 ・皆川氏より、不景気だと福祉求人が増えるといわれているので、一般企業の求人が減っている現在、コロナ禍の影響はあるのではないかと、チャンスというのではないが、安定した職業とやりがいのある仕事ということで学生募集をしていただければと意見があった。
<p>(8)財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(8)の項目についての説明が求められた。 ・校長より、(8)の項目について、評価項目「中長期的に学校の財務基盤は安定しているか」に関しては、学園全体での財務基盤は事業活動収支が5年間で倍増しており、現時点では盤石となっているため評価を適切(4)とした。評価項目「本校の収支は黒字になっているか」に関しては、10年以上前から赤字が続いており、4年前から徐々に回復している状況なので評価を不適切(1)とした。評価項目「予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか」に関しては、計画を上回るペースで回復しているため評価を適切(4)とした。評価項目「財務について会計監査が適正に行われているか」に関しては、学園全体で二つの会計事務所に会計監査を依頼し、適正に行われているため評価を適切(4)とした。評価項目「財務情報公開の体制整備はできているか」に関しては、事業報告書、財務報告書ともに学園や各学校のホームページで公開されているため評価を適切(4)とした。 ・議長(委員長)より、これから18歳人口が減少していく。学校としては留学生を増やしていく方針なのかと質問があった。 ・校長より、18歳人口は、2020年度の約117万人から2040年度には80万人程度まで減少し、コロナ禍の影響で少子化にさらに加速がついたといわれている。学科編成や学科定員について中長期的に検討が必要と考えている。東葛地域は若年層が多くそれほど多くは減らないが、地方を含めると幼稚園・保育園の閉園が増加している。社会情勢を見て定員など検討する必要が出てくると説明があった。
<p>(9)法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(9)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(9)の項目について、昨年度から大きな変更はなく、適切(4)もしくはほぼ適切(3)とした。評価項目「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」に関しては、大幅な変更を行っていないためほぼ適切(3)とした。

<p>(10)社会貢献・地域 貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(10)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(10)の項目について、適切(4)もしくはほぼ適切(3)とした。評価項目「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」に関しては、支援体制の強化を図り、より積極的な展開を図る必要があるため評価をほぼ適切(3)とした。 ・皆川氏より、地域貢献の一環として創部した吹奏楽部だが、コロナ禍で活動ができていないと聞いているが、現在どうなっているだろうかと質問があった。 ・校長より、令和 2～3 年度はサークル活動全般が活動できていない。市立柏卒業の学生も入学しており、コロナ流行が改善して活動が再開できればと思っていると説明があった。 ・皆川氏より、吹奏楽部出身の学生は毎年入学しているのかと質問があった。 ・校長より、入学していると返答があった。 ・皆川氏より、コロナ禍以前は施設からの要望が多くて回り切れないと聞いていたので、ぜひ再開してもらいたいと発言があった。 ・川崎氏よりコロナ禍の現在、ボランティア要請はあるのかと質問があった。 ・杉野副校長より、令和 2 年度は要請がなく、学校からも推奨しなかった。令和 3 年度は再開することが出てきており、学生には資格取得学習のためや実習の練習として受け入れてくれるところがあれば参加を推奨している。学生の 6～7 割は保育園や障害者施設でボランティアを実施した。
<p>(11)国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(11)の項目についての説明が求められた。 ・校長より、(11)の項目について、今年 3 月には 20 名以上の留学生の卒業生が介護施設に就職、現在の1、2 年生もそれぞれ 20 名以上在籍している。オーバーワークをしないように指導を徹底したこともあって本年度入学の学生は全員無事にビザ更新ができた。在籍管理に関しても学生のビザ更新は学務課と国際交流センターで連携して留学生の申請のサポートをしている。施設と連携ができている学生は更新が 2 年単位になるので今年の入学生に関しては全員卒業までビザ更新の必要がなくなっている。生活指導面については、昨年結核感染が判明した学生が 1 名出たが、オンライン授業を活用して学業を継続できているなど、健康面を含めて生活指導ができていると考えている。国内外の評価に関しては、千葉県の留学生受入プログラムによる本校の受入人数は千葉県内の養成所では最大規模になっている。学校の選択はマッチングした施設が行っているので、施設からある程度評価されていると考えている。千葉県健康福祉部から留学生関係の相談を受けているので、県庁からも一定の信頼を得ていると考えている。課題としては、来年もベトナム等東南アジアからの留学生在が入国できない状況が続くと、再来年入学の留学生在がいなくなってしまうリスクがあると報告があった。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、すべての項目について審議(評価)は終了したが全体を通して何か意見・質問等があるか確認がなされた。 ・校長より、令和 3 年 9 月上旬に大学でコロナウイルスの大学拠点接種を行った。その際には東船橋病院に大変ご尽力していただきありがとうございました。10 月上旬に 2 回目の接種があるのでまたよろしくお願いたします。専門学校関連では、学生 75 名、同窓会が 42 名、教職員 6 名、教職員家族 9 名、近隣保育園等 4 名の計 136 名が接種を受けた。同窓会の方から感謝の手紙が何通か届いたと報告があった。